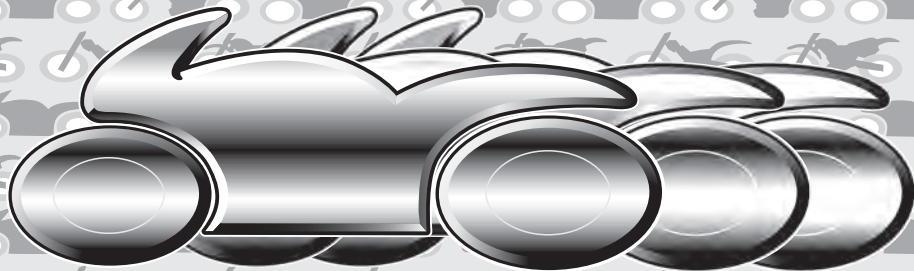




取扱説明書



運転する前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。

GYRO X

Honda車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

お車の引き渡しについて

★お買いあげになりましたら、Honda販売店にてこの取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記の説明を受けてください。

- お車の正しい取扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

運転免許について

★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。

この車は、第1種原動機付自転車です。

★乗車定員

この車の乗車定員は、運転者のみの1人です。

排出ガス規制について

★この車は排出ガス規制適合車です。

GYRO X (BB-TD01 型) :

平成10年排出ガス規制適合車

取扱説明書について

★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。

「安全に関する表示」「安全運転のために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。

★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

また、メンテナンスノートもぜひお読みください。

★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

★車の仕様、その他の変更により、この本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。

★この取扱説明書は、ウインドスクリーン装備車を中心に説明してあります。

安全に関する表示について

★安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

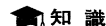


指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

★その他の表示



お車のために守っていただきたいこと



知っておいていただきたいこと

知っておくと便利なこと

目次

安全運転のために	4
触媒装置について	15
各部の名称	16
メータの見かた、使いかた	20
計器類	20
速度計(スピードメータ)	20
積算距離計(オドメータ)	20
燃料計	20
警告灯・表示灯	21
オイル残量警告灯	21
速度警告灯	22
方向指示器表示灯	22
前照灯上向き表示灯	22
(ハイビームパイロットランプ)	
スイッチの使いかた	23
メインスイッチ	23
スタータスイッチ	24
ホーンスイッチ	24
方向指示器スイッチ	25
前照灯(ヘッドライト)	
上下切換えスイッチ	26

装備の使いかた	27
パーキングロックレバー	27
シートロック	30
ヘルメットホルダ	31
書類入れ	32
エアインレットカバー	33
ハンドルグリップヒーター	34
燃料とエンジンオイルの補給	35
燃料の補給	35
燃料コック	37
エンジンオイルの補給	38
正しい運転操作	40
エンジンのかけかた	40
走りかた	42
ブレーキの使いかた	43

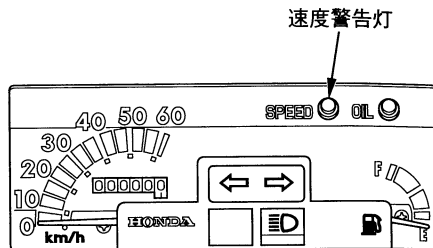
メンテナンスを安全に行うために	44
日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス	47
日常点検	49
定期点検	52
簡単なメンテナンス	54
ブレーキ	55
前輪ブレーキ	55
ブレーキレバーの遊びの点検	55
後輪ブレーキ	56
ブレーキペダルの遊びの点検	56
前輪・後輪ブレーキ	57
ブレーキシューの摩耗の点検	57
タイヤ	58
空気圧の調整	58
溝の深さの点検	58
交換タイヤの選択について	59
エアクリーナ	60
エアクリーナエレメントの 取付け、取外し	60
エアクリーナエレメントの点検	62
エアクリーナエレメントの清掃	62

トランスミッション	64
オイル量の点検	64
オイル漏れの点検	67
バッテリー	68
バッテリーターミナル部の清掃	69
バッテリーの取付け、取外し	70
ヒューズ	71
ヒューズの点検、交換	72
パーキングロックレバー	74
遊びの点検	74
ケーブル類のラバーブーツ	75
ラバーブーツの点検	75
車のお手入れ	76
ウインドスクリーンの取扱い	78
保管のしかた	80
地球環境の保護について	81
色物部品をご注文のとき	82
マフラの純正マークについて	83
フレーム号機	84
エンジンが始動しないとき	85
主要諸元	86
サービスデータ	88

安全運転のために

ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

- スピードメータ部に速度警告灯が装備されています。
車の速度が法定最高速度(30 km/h)を越えると速度警告灯が点滅し運転者に注意をうながします。

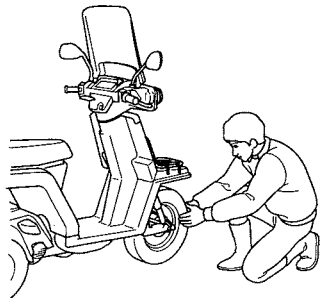


運転する前に

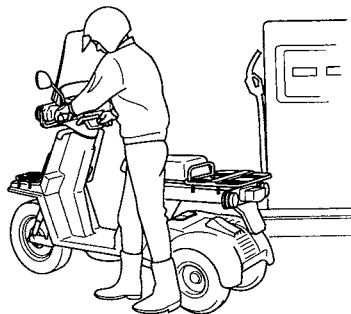
- 日常点検を行ってください。

車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。

日常点検は、49 ページ参照。



- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

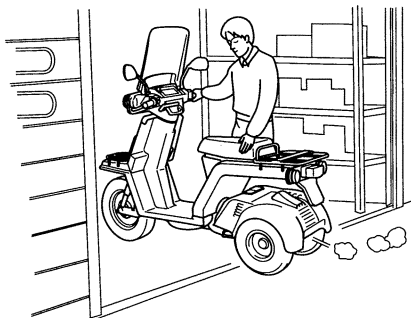


- 定期点検を実施してください。

定期点検は、52 ページ参照。

安全運転のために

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。



服装

- 運転者は、必ずヘルメットを着用してください。
これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。
ヘルメットは二輪車でCS、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっかり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
 - ・フェイスシールドまたはゴーグルの使用
 - ・くるぶしまで覆い、かかとのある靴の着用
ー二輪車用ブーツが望ましい
 - ・摩擦に強い皮製の手袋の着用
 - ・長ズボンと長袖のジャケットの着用
ー明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
ーすその広いズボンや袖口の広いジャケットは、プレーキやチェンジ操作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

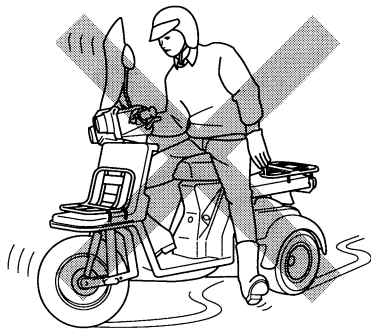
運転者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。



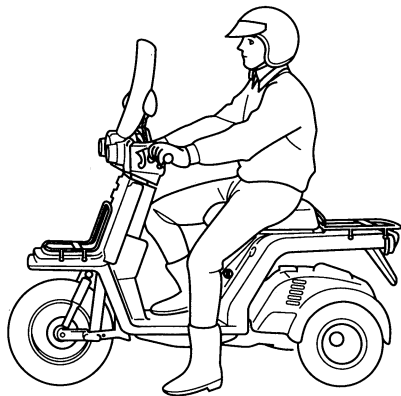
安全運転のために

乗りかた

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。
- 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。
これは、安全運転の原則です。



- ゆっくりスタートし、足はすばやくフロアに乗せてください。
足が後輪に接触すると、思わぬ事故をまねきます。



- 悪路走行
凸凹の路面を走るときは、バランスをくずさないように十分にスピードを落して走行してください。また段差がある場合には、車体はねないようにゆっくりと走行してください。
- 雪道や凍った道はすべりやすくなっています。必ずタイヤチェーンまたはスノータイヤを装着し、ゆっくり走ってください。
タイヤチェーンのお求めはホンダ販売店にお申しつけください。

安全運転のために

荷物

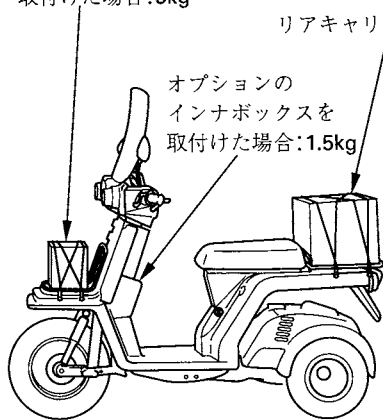
- 荷物を積むと、積まないときに比べてハンドルの感覚が少し変わりますから注意しましょう。積みすぎると、ハンドルがふられ運転を誤まる場合がありますので、積みすぎに注意しましょう。

- 荷物の積載は下記重量までです。

フロントキャリアまたは
オプションのフロントバスケットを
取付けた場合:5kg

リアキャリア:10kg

オプションの
インナボックスを
取付けた場合:1.5kg



-
- 荷物を高く積み過ぎると走行中に風の影響を受けたり、カーブでバランスを失うことがあります。
 - 荷物はしっかりと固定してください。
 - オプションのフロントバスケットやインナボックスから荷物がはみ出したり、前照灯(ヘッドライト)をふさがないようにしましょう。ハンドル操作や、前照灯の照明に支障をきたすことがあります。
 - ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。
 - ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。
 - 荷物は指定の場所以外には積まないでください。カバー等が破損することがあります。
 - オイルタンクキャップのまわりに布等を置かないでください。オイルタンクキャップの空気穴をふさいで、エンジンオイルの給油が悪くなり、エンジンが焼付くことがあります。
 - エンジンカバーとプラグキャップの間に物を入れないでください。入れると走行に支障をきたすことがあります。

安全運転のために

改造

- 車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。
不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。
- この車は平成10年排出ガス規制適合車です。
排出ガス濃度を劣化させるような不正改造は行わないでください。
また、マフラには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
他のマフラをこの車に取付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。
マフラを交換する場合は、Honda販売店にご相談ください。

駐車

- 水平でしっかりした地面の場所に、車体を垂直にしパーキングロックをかけ駐車してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- マフラなどが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。

⚠ 注意

マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

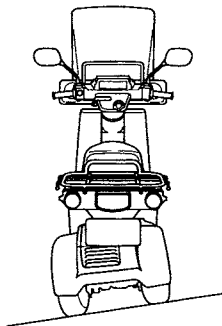
- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

安全運転のために

傾斜地での駐車について

やむをえず傾斜地で駐車する場合は、パーキングロックのスイングロック機構を利用し車体本体を垂直にしてください。

パーキングロックについては、27ページ参照。



触媒装置について

触媒装置の働き

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。

触媒装置の働きにより、排出ガスに含まれる一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NO_x)の3つの有害物質の排出量を低減します。

可燃物には注意を

触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

触媒装置を大切に

不適切な取扱いをすると触媒温度が異常に高くなり焼損するおそれがありますので、次のような取扱いはしないでください。

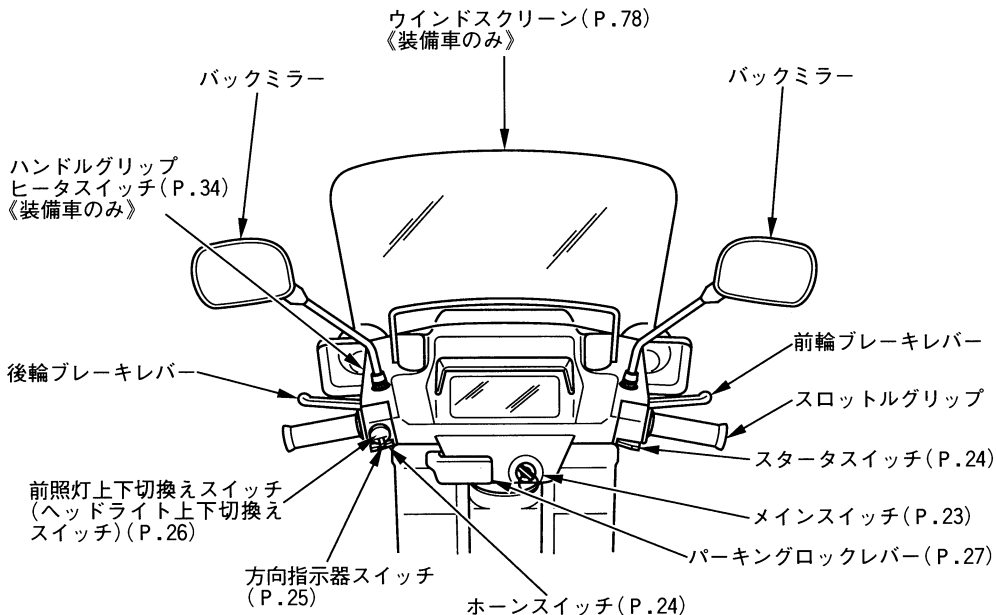
《不適切な取扱いの例》

- 走行中にメインスイッチのキーを操作すること。
- エンジンを止めるとき、空ぶかし直後にメインスイッチのキーを切ること。

触媒装置が損傷したまま使用すると排出ガス濃度を劣化させるだけでなく、この車本来の性能を発揮できなくなりますので次のことをお守りください。

- 燃料は必ず無鉛ガソリンをご使用ください。
- 定められた点検整備を実施してください。
- 点火系、充電系、燃料系の不調は触媒装置に大きく影響を与えますので、エンジン不調を感じたときはただちにHonda販売店で点検を受けてください。

各部の名称

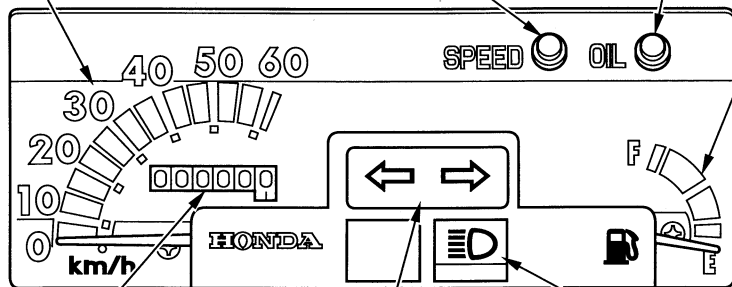


速度計
(スピードメータ) (P. 20)

速度警告灯 (P. 22)

オイル残量警告灯 (P. 21)

燃料計 (P. 20)

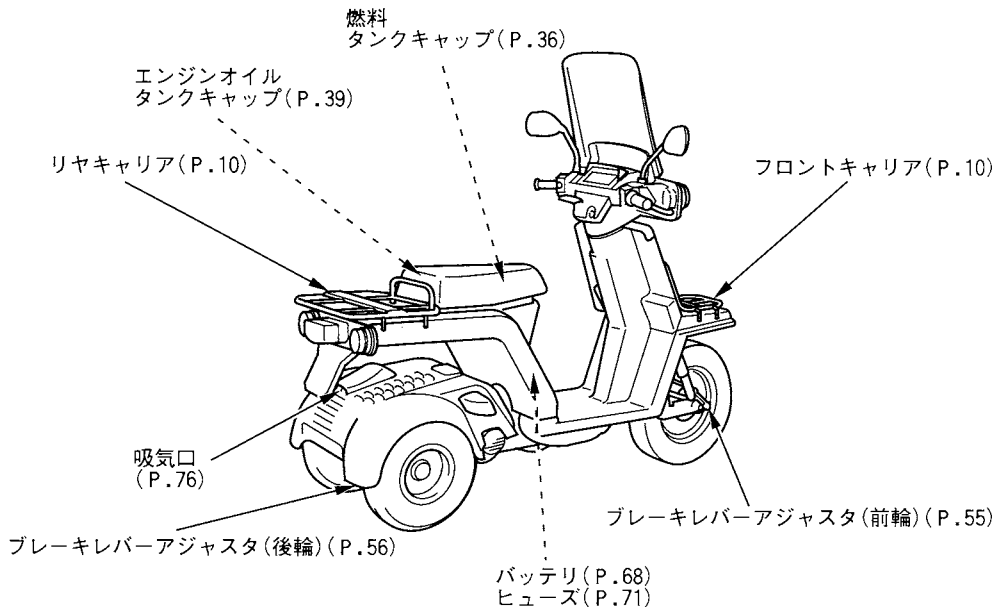


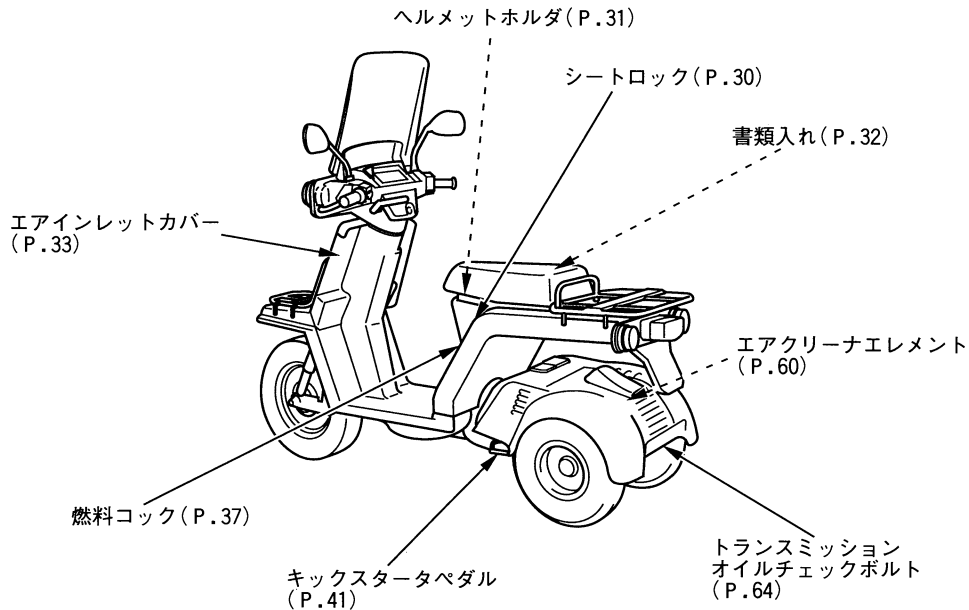
積算距離計 (P. 20)
(オドメータ)

方向指示器表示灯
(P. 22)

前照灯上向き表示灯
(P. 22)

各部の名称





メータの見かた、使いかた

計器類

速度計(スピードメータ)

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

積算距離計(オドメータ)

走行した総距離をkmの単位で示します。
白地に黒数字は100 mの単位です。

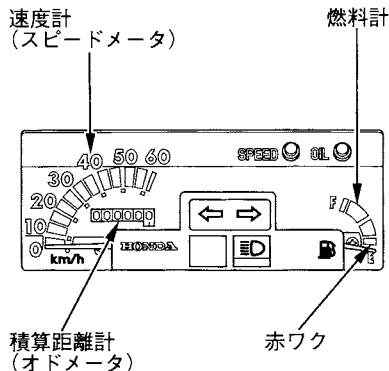
燃料計

燃料タンク内のガソリンの量を示します。
指針が赤ワクに入りかけたときは、早めにガソリンを補給してください。

燃料計の指針が赤ワクに入りかけたときの燃

料有効残量：約1.5ℓ

ガソリンの補給は、35ページ参照。



警告灯・表示灯

オイル残量警告灯

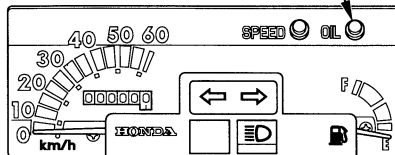
オイルタンク内のオイルが少なくなると点灯します。点灯したら、できるだけ早目にオイルを補給してください。

オイルの補給は、38 ページ参照。

アドバイス

- オイルは切らさないでください。オイル残量警告灯が点灯したまま走行するとオイルが切れエンジンがこわれます。

オイル残量警告灯



メーターの見かた、使いかた

警告灯・表示灯

速度警告灯

速度が30 km/hを越えると、点滅します。

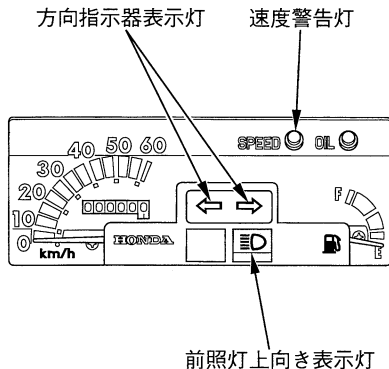
方向指示器表示灯

方向指示器が点滅しているときに点滅します。

前照灯上向き表示灯

(ハイビームパイロットランプ)

照射角が上向きのときに点灯します。



スイッチの使いかた

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

キーの位置	作用	キーの脱着
ON	始動・走行 ● ホーン・方向指示器・制動灯(ストップランプ)などが使える	抜けない
OFF	停止 ● 電気回路を全て遮断する	抜けない
LOCK	パーキングロックレバーを固定する。 ● 電気回路を全て遮断する。	抜ける

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。

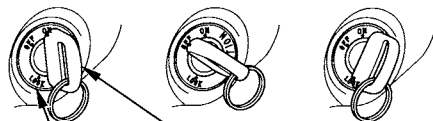
知識

- パーキングロックがかかった状態で“LOCK”にできます。
- 車をはなれるときは、ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。

ONの状態

OFFの状態

LOCKの状態



メインスイッチ

メインスイッチのキー

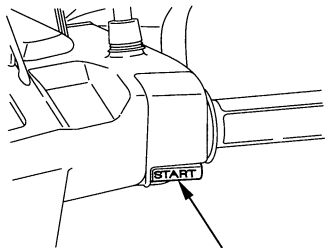
スイッチの使いかた

スタータスイッチ

メインスイッチのキーを“ON”にしてブレーキレバーを握り、スイッチを押すとエンジンがかかります。

知 識

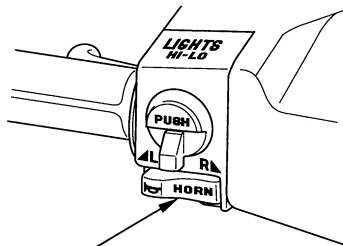
- ブレーキをかけた状態でないとエンジンはかかりません。



スタータスイッチ

ホーンスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。



ホーンスイッチ

方向指示器スイッチ

右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。

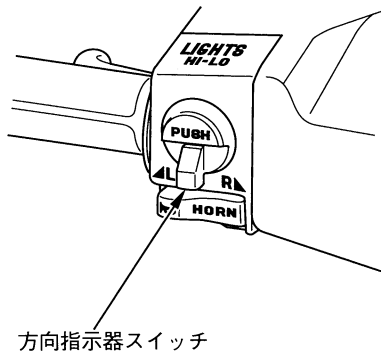
R…右に曲がるときに操作します。

L…左に曲がるときに操作します。

解除は、方向指示器スイッチを下方にして行います。

知 識

- 方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。
- 電球(バルブ)は、正規のワット数以外のものを使用しますと、方向指示器が正常に作動なくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。



スイッチの使いかた

前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)

前照灯(ヘッドライト)の照射角を上下に切換えるスイッチです。

前照灯の上下切換えは、スイッチを押して行います。

(上向き)

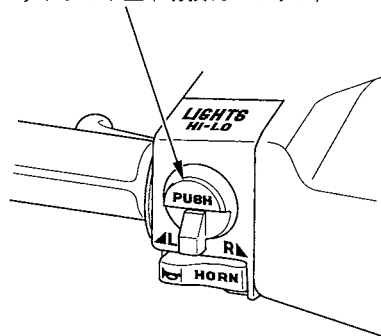
HI …… 遠くを照らしたい場合に使用します。

(下向き)

LO …… 対向車のあるとき、市街地走行など上向きが不適當なときは、下向きにしてください。

昼間は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)



装備の使いかた

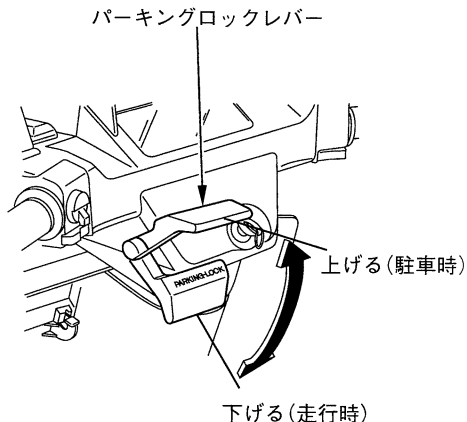
パーキングロック

この車には、駐車時に使用する、パーキングロックが装備されています。

駐車するときは、パーキングロックレバーを操作し、必ずパーキングロックをかけてください。パーキングロックをかけないと車が転倒します。また、パーキングロックをかけた状態で、メインスイッチを“LOCK”にすると、パーキングロックレバーが動かなくなります。

知識

- パーキングロックは、パーキング機構とスイングロック機構を備えています。どちらの機構もパーキングロックレバーの操作で作動します。
 - ・ パーキング機構は、減速機を固定して後輪を回らなくします。
 - ・ スイングロック機構は、後輪部分と車体本体がスイングするのを止めます。



装備の使いかた

走行中はパーキングロックレバーを操作しないでください。



走行中にパーキングロックレバーを上げると、後輪がロックすると共に車体がスイングしなくなります。これらは、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

走行中は、パーキングロックレバーを操作しないでください。パーキングロックレバーの操作は、車が完全に停止してから行ってください。



アドバイス

- 走行中や停止直前にパーキングロックレバーを操作すると、パーキング機構を損傷し、スイングロック機構に悪影響を与えます。パーキングロックレバーの操作は、車が完全に停止してから行ってください。

《パーキングロックのかけかた》

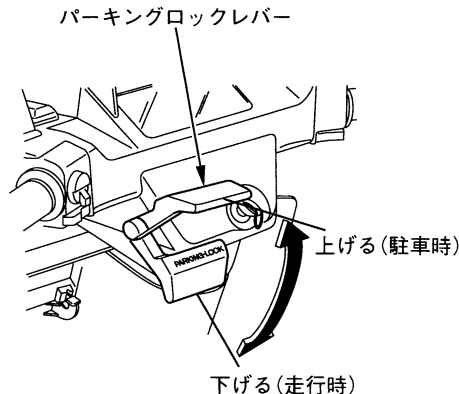
1. 車体本体を垂直状態にします。
2. パーキングロックレバーを上げます。車体本体を左右に軽く揺り、車体が固定されたことを確認します。
3. メインスイッチを“LOCK”にします。

知 識

- スイングロック機構は、段階的に 5 箇所の位置(範囲)でロックできます。パーキングロックをかける時は、必ず車体本体を垂直に最も近い状態でロックしてください。
- 車をはなれるときは、メインスイッチのキーを必ず抜いてお持ちください。

《外しかた》

1. メインスイッチを“OFF”または“ON”にします。
2. 車体本体を保持しながら、パーキングロックレバーを下げます。



装備の使いかた

シートロック

《外しかた》

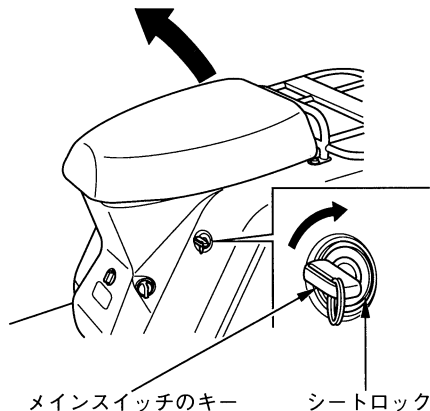
メインスイッチのキーでシート左下のシートロックを外しシートを開けます。

《かけかた》

1. シートを閉じ、上から押し下げてロックします。
2. シート後部を軽く持ち上げ、シートが確実にロックされたことを確認します。

知 識

- キーをシートの下に置き忘れた状態でシートを下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。
- シートを閉めた後、完全にシートロックがかかったか確かめてください。
ロックをかけないで走行すると、走行に支障をきたすことがあります。



ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用するものです。

走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨げたり、車体に損傷を与えることがあります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

《使いかた》

1. メインスイッチのキーを使いシートロックを解除し、シートを開けます。(30ページ参照)
2. ヘルメットホルダーにヘルメットの金具をかけます。
3. シートを閉じ、上から押し下げてシートをロックします。
4. シートの後部を軽く持ち上げ、シートが確実にロックされたことを確認します。

《外しかた》

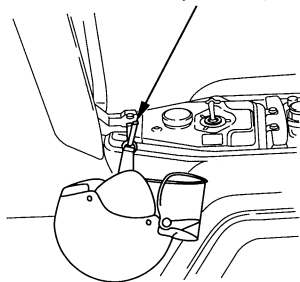
メインスイッチのキーを使いシートを開けて、ヘルメットを取外します。



アドバイス

- キーをシートの下に置き忘れた状態でシートを下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。

ヘルメットホルダ



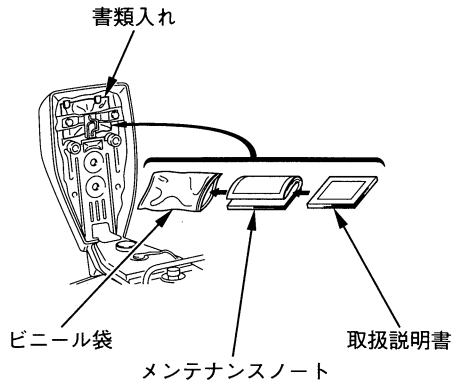
装備の使いかた

書類入れ

シート裏側に書類入れがあります。
取扱説明書やメンテナンスノートなどは、ビニール袋に入れ、ここに格納してください。
(シートの開閉は、30ページ参照)

知 識

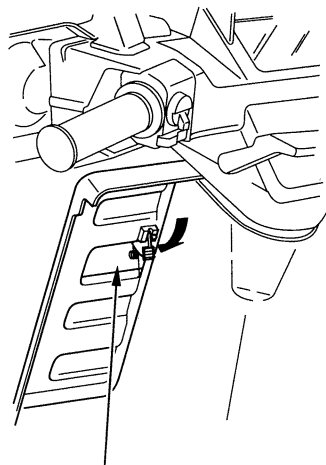
- 洗車時、書類の格納場所付近に強く水をかけないでください。内部に水が入ることがあります。



エアインレットカバー

レバーを下げると、エアインレットカバーが開きます。

閉じる場合は、レバーを持ち上げます。



エアインレットカバー

装備の使いかた

ハンドルグリップヒータ

《装備車のみ》

使用するときは、手袋を着用してください。
外気温が20℃以上のときは、使用しないでください。

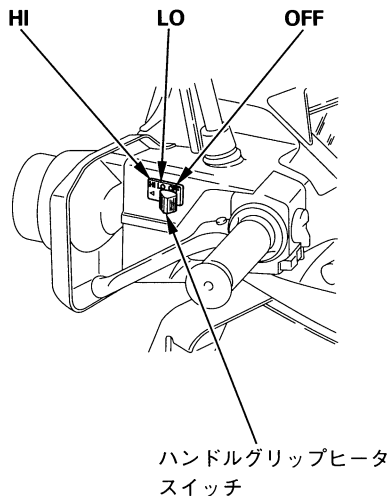
《使いかた》

エンジンを始動して、ハンドルグリップヒータのスイッチを“LO”から“HI”にします。
気温に合わせて“LO”、“HI”を使い分けてください。

走行中はハンドルグリップヒータスイッチの操作を行わないでください。

知 識

- グリップラバーが損傷した場合は、新しいものと交換してください。
- ハンドルカバーを使用するときは、必ずGYRO X専用のものを使用してください。



燃料とエンジンオイルの補給

燃料の補給

《使用燃料》

無鉛ガソリン



アドバイス

- 有鉛ガソリンや有鉛の燃料添加剤等を使用しないでください。触媒装置の損傷の原因となります。

ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

ガソリンを取扱う場合は、

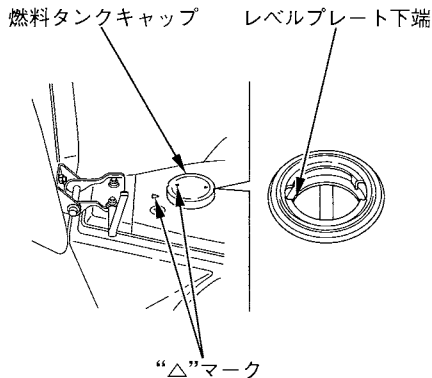
- エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。
- 燃料補給は、必ず屋外で行ってください。
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。

燃料とエンジンオイルの補給

3. ガソリンを注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。

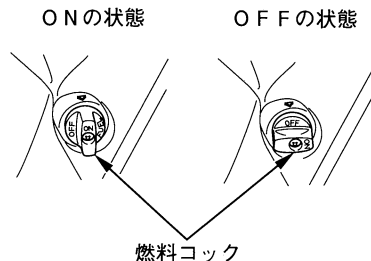
ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると、燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。

4. 燃料タンクキャップを右に回すとしまります。タンクキャップの“△”マークと燃料タンクの“△”マークが合うところまで確実に回してください。
5. シートを閉じ、上から押して下げてロックします。
6. シート後部を軽く持ち上げ、シートが確実にロックされたことを確認します。



燃料コック

- ON …… キャブレターにガソリンが流れます。
乗車するときは、コックがこの位置にあることを確かめてください。
- OFF …… ガソリンが止まります。
長期保管や燃料系統の点検・整備を行うとき、この位置にしてください。



燃料とエンジンオイルの補給

エンジンオイルの補給

《指定オイル》

Honda純正オイル(2サイクル二輪車用)

	J A S O M 345規格
ウルトラスーパー ファイン	F C
ウルトラ2スーパー	

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、JASO FC級をお選びください。

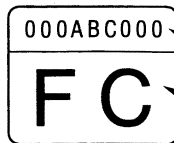
なお、JASO FC級オイルでも、特性が微妙に異なり、この車本来の性能が発揮できない場合があります。

🏍️ アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。オイルの変質などにより、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

🎓 知 識

- JASO M 345規格とは、2サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。
なお、規格に適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



上段: オイル販売会社の
整理番号

下段: 性能分類の表示
F C 性能であることを
示しています

JASO M 345適合品
本FC性能の品質保証者

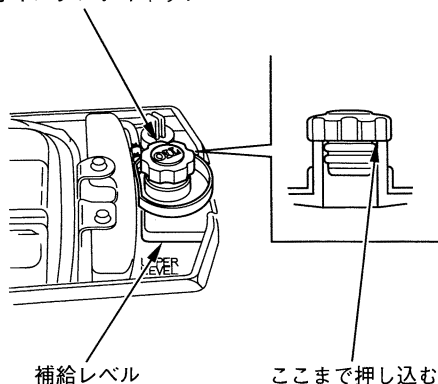
《補給のしかた》

1. メインスイッチのキーを使ってシートロックを解除し、シートを開けます。(30ページ参照)
2. オイルタンクキャップをおこすように引き抜きます。
3. オイルタンクの補給レベルまでオイルを補給します。

オイルは補給レベル以上に入れないでください。オイルがにじみ出るおそれがあります。

4. オイルタンクキャップを取付けます。キャップは2段モーションになっています。キャップを押し込むと重くなる場所がありますから、キャップをその位置からもう一度、強く根本まで確実に押し込みます。
5. シートを閉じ、上から押し下げてロックします。
6. シート後部を軽く持ち上げ、シートが確実にロックされたことを確認します。

オイルタンクキャップ



正しい運転操作

エンジンのかけかた

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

エンジン始動は、41ページの「始動手順」に従ってください。

- 急な飛び出しを防ぐため、始動時は必ずパーキングロックレバーを上げた状態にしてください。
- スタータスイッチとキックスタータペダルは同時に使用しないでください。
- キックスタータペダルを使用しエンジンがかかったら、すぐにキックスタータペダルから足を離してください。また、使用後キックスタータペダルは、必ず折りたたんでください。



アドバイス

- スタータスイッチを押して5秒以内でエンジンがかからないときは、10秒くらい休んでからまた押してください。
これはバッテリー電圧を回復させるためです。
- エンジンがかかっているときパーキングロックレバーを上げた状態でスロットルグリップを回さないでください。動力伝達装置が異常摩耗をおこします。

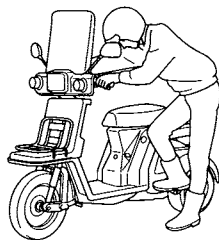
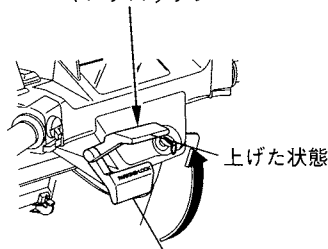
《始動手順》

1. パーキングロックレバーが上げられていることを確認します。
2. 燃料コックが“ON”になっていることを確認します。
3. メインスイッチを“ON”にします。
4. 後輪ブレーキレバーを握ります。
5. スロットルグリップを回さずに、スタートスイッチを押すか、キックスタータペダルをキックします。

「スタートスイッチを5～6秒押しても(キックスタータペダルの場合は、5～6回キックしても)エンジンがかからない」このような場合は、スロットルグリップを少し回すとかかりやすくなります。

6. エンジンがかかったら、回転がスムーズになるまでパーキングロックレバーをあげたままスロットルグリップを回さずに暖気運転します。(普通30秒ぐらい、特に寒いときは2～3分ぐらい)

パーキングロックレバー



正しい運転操作

走りかた

1. 後輪ブレーキレバーを握り、パーキングロックレバーを下げます
2. 車を左右に軽く動かして、スイングロック機構が解除されていることを確認します。
3. 後輪ブレーキレバーを放し、スロットルグリップをゆっくり回せば車はゆっくりと走り出します。



アドバイス

- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにHonda販売店で調べましょう。



知識

- 発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

《慣らし運転》

適切な慣らし運転を行うと、その後のお車の性能を良い状態に保つことができます。

この車は乗り初めてから100 kmを走行するまでは急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

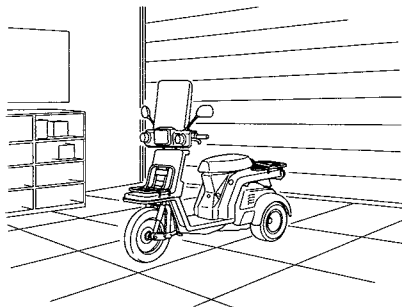
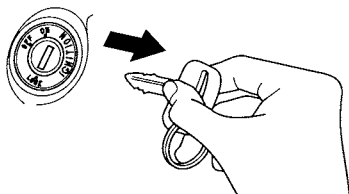
ブレーキの使いかた

- ブレーキは、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う必要があります。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。
- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。

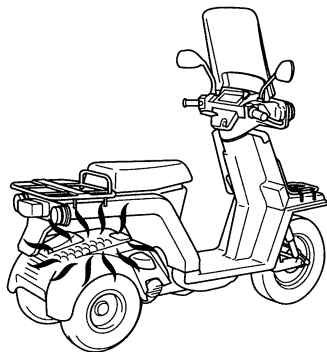
- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

メンテナンスを安全に行うために

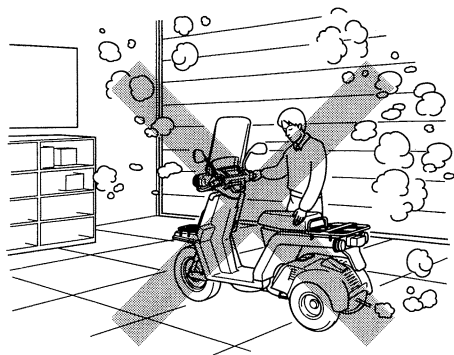
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、パーキングロックをかけて行ってください。



- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

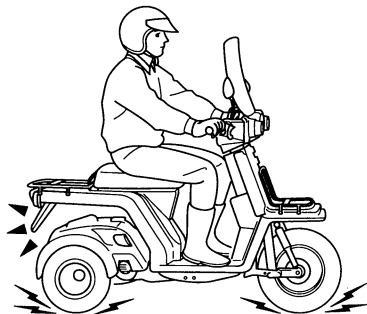


- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



メンテナンスを安全に行なうために

- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。



日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、道路運送車両法に準じて1日1回の日常点検と6か月、12か月毎の定期点検整備を設けてあります。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

警告

点検整備の方法を正しく行わないことや、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

1か月目点検について	48
交換部品について	48
日常点検	49
メンテナンス部品配置図	50
定期点検	52
6か月点検項目	53
簡単なメンテナンス	54
ブレーキ	55
タイヤ	58
エアクリーナ	60
トランスミッション	64
バッテリー	68
ヒューズ	71
パーキングロックレバー	74
ケーブル類のラバーブーツ	75

日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

1 か月目点検について

新車から1 か月目(または、1,000 km時)は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いいたします。

お買いあげのHonda販売店で行ってください。

他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。

また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」の14ページをご覧ください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な“Honda純正部品”をご使用ください。

純正部品は、厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。

お求めは、Honda販売店にご相談ください。

純正部品には、次のマークがついています。

純正部品マーク

HONDA

GENUINE PARTS

Honda Motor Co., Ltd.

Made In Japan

日常点検

日常点検

日常点検は、お車を使用する方が1日1回運転する前に実施する点検です。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

この車に適用される点検項目は、右記「日常点検項目」です。

下線のついている項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。54 ページ以後を参照してください。

また、点検項目の部位を次ページの「メンテナンス部品配置図」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」の20ページ以後をご覧ください。

日常点検項目

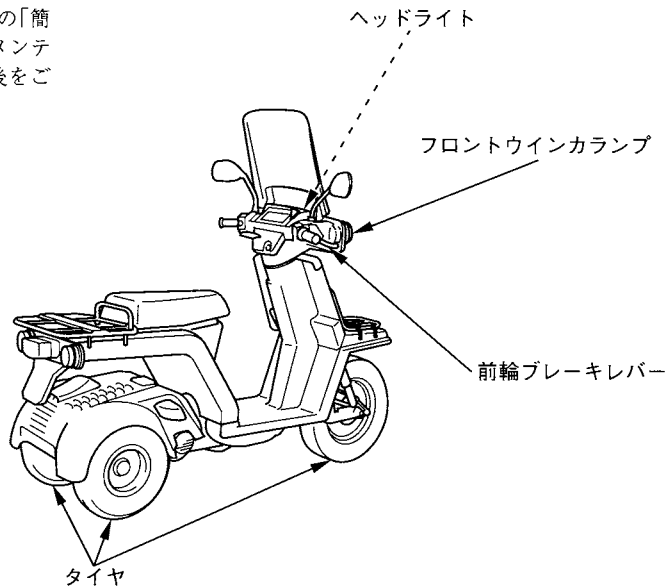
- ブレーキ
 - ・レバーの遊び
 - ・ブレーキのきき具合
- タイヤ
 - ・空気圧
 - ・亀裂、損傷
 - ・異状な摩耗
 - ・溝の深さ(※)
- エンジン
 - ・エンジンオイルの量(※)
(2サイクル車)
 - ・かかり具合、異音(※)
 - ・低速、加速の状態(※)
- 灯火装置及び方向指示器
- 運行において異状が認められた箇所

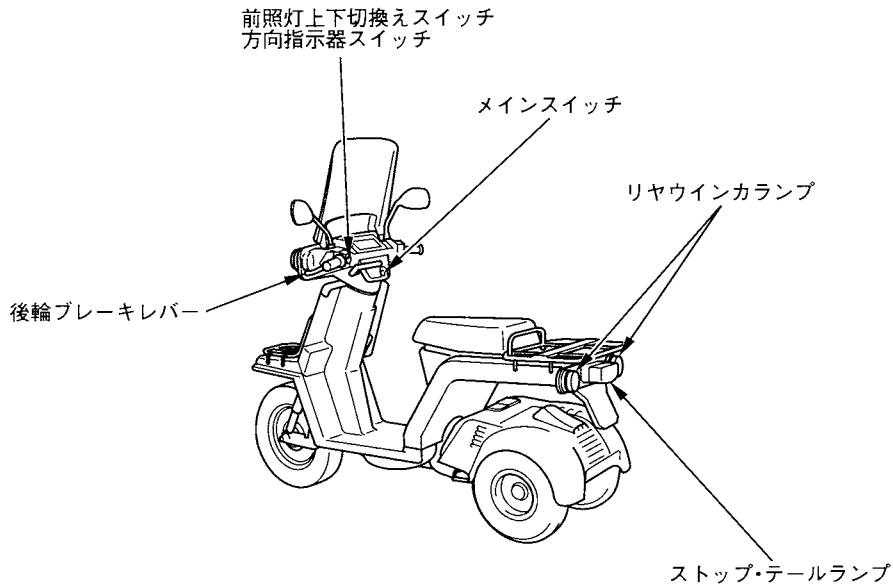
(※)印の点検は、お車の走行距離、運転時の状態等から判断した適切な時期に行う項目です。

日常点検

メンテナンス部品配置図

点検の方法・要領は、取扱説明書の「簡単なメンテナンス」および別冊「メンテナンスノート」の 20 ページ以後をご覧ください。





定期点検

定期点検

定期点検は、道路運送車両法に準じて設けられた6か月、12か月ごとの点検と、使い始めてから1か月目(または、1,000 km時)に行う点検があります。また、これらの点検項目のほかにHondaが推奨する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。

点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。

- ご自身で実施できない場合は、Honda販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、86 ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

6 か月点検項目は、次ページにあります。

点検内容等、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“定期点検の解説”(23 ページ)をご覧ください。

6 か月点検項目

点検内容は、別冊「メンテナンスノート」の 23 ページをご覧ください。

- 点火装置
 - ・ スパークプラグの状態
- エンジン本体
 - ・ 排気ガスの状態
 - ・ エアクリーナエレメントの汚れ、詰まり
 - ・ エンジンオイルの漏れ
- クラッチ
 - ・ クラッチの作用
- トランスミッション
 - ・ オイルの漏れ、量
- ブレーキペダル及び
ブレーキレバー
 - ・ 遊び
 - ・ ブレーキのきき具合
- ブレーキドラム及び
ブレーキシュー
 - ・ ドラムとライニングのすき間
- ホイール
 - ・ タイヤの状態
 - ・ ホイールのボルト、ナットの緩み

簡単なメンテナンス

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス(点検整備)について説明しています。

ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、Honda販売店にご相談ください。

ブレーキ

前輪ブレーキ

《ブレーキレバーの遊びの点検》

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

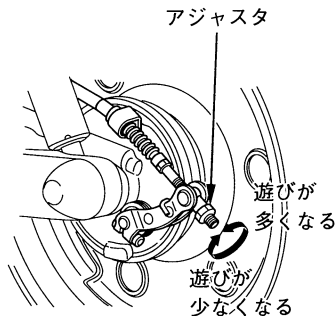
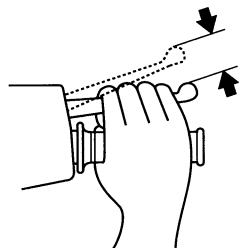
前輪ブレーキレバーの遊び：10－20 mm

規定の範囲を越えている場合は調整してください。

調整のしかた

アジャスタを半回転づつ回し、遊びを調整します。

調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。



簡単なメンテナンス

後輪ブレーキ

《ブレーキレバーの遊びの点検》

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

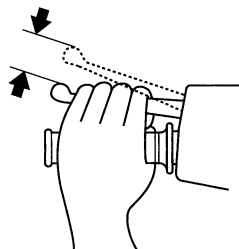
後輪ブレーキレバーの遊び：10-20 mm

規定の範囲を越えている場合は調整してください。

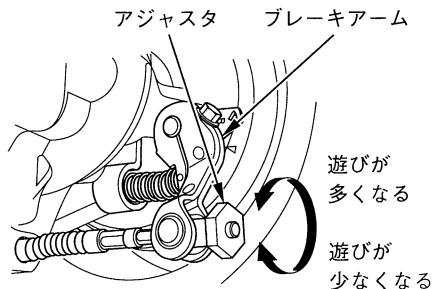
調整のしかた

右側のアジャスタを半回転させたら左側も半回転させるといように、左右のアジャスタを半回転づつ同じ方向に回して遊びを調節します。その後、左右のブレーキアームを指で押して、ブレーキアームに左右ほぼ同等の遊びがあることを確認します。

調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。



《右側アジャスタ》(左右供)



前輪・後輪ブレーキ

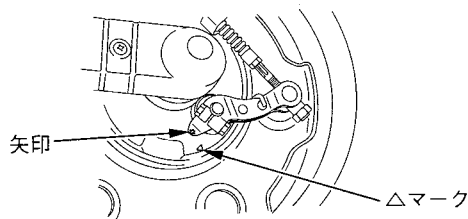
《ブレーキシューの摩耗の点検》

ブレーキレバーをいっぱい引いて、ブレーキインジケータの矢印(前輪)または△穴の頂点(後輪)とブレーキパネルの△マークが一致しないことを確認します。

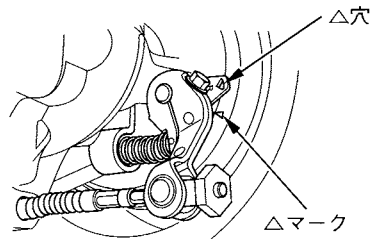
一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。

ブレーキシューの交換は、Honda販売店にご相談ください。

《前輪ブレーキ》



《右側後輪ブレーキ》(左右共)



簡単なメンテナンス

タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。

常に適正な空気圧を保ってください。

また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。

⚠ 警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

《空気圧の調整》

タイヤが冷えている状態で、エアゲージを使用し、適正な空気圧にします。

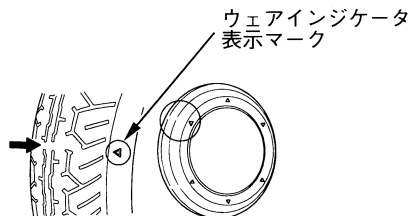
タイヤの空気圧

前 輪	150 kPa (1.50 kgf/cm ²)
後 輪	125 kPa (1.25 kgf/cm ²)

《溝の深さの点検》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（スリップサイン）により確認します。

ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。



《交換タイヤの選択について》

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。

指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、Honda販売店にご相談ください。

指定タイヤ

前輪	サイズ	3.50 - 10 41J チューブ付き
後輪	サイズ	130 / 90 - 6 53J チューブ付き



指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

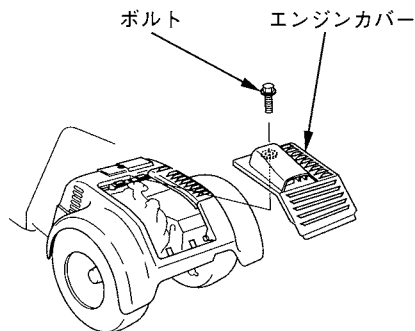
簡単なメンテナンス

エアクリーナ

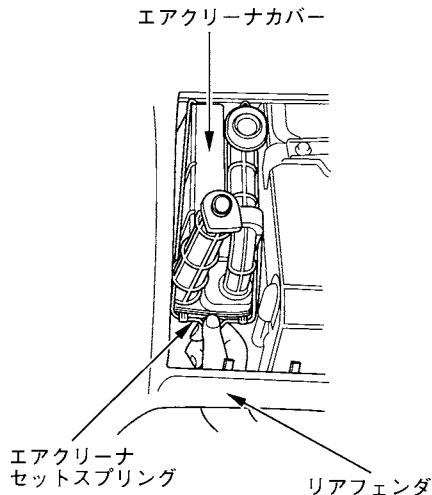
《エアクリーナエレメントの取付け、取外し》

取外し

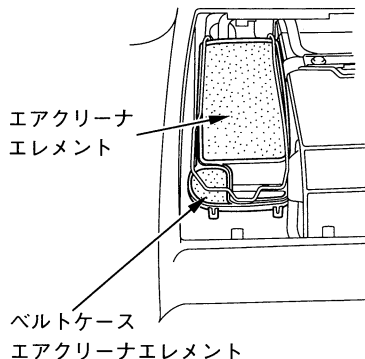
1. ボルトを外し、エンジンカバーを取外します。



2. リヤフェンダの下側より手を入れ、セットスプリングを下方に押しエアクリーナケースから外して、エアクリーナカバーを取外します。



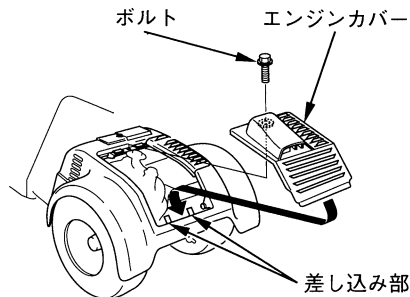
3. エアクリーナエレメントを取外します。



取付け

取付けは、取外しの逆手順で行います。

- エアクリーナカバーを確実に取付け、セットスプリングで固定してください。
- エンジンカバーはリヤフェンダ差し込み部へ取付け、ボルトを確実に締付けてください。



🏍️ アドバイス

- エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起こし、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。

簡単なメンテナンス

《エアクリーナエレメントの点検》

エアクリーナエレメントを外し、汚れ、詰まり、損傷などが無いかを目視などにより確認します。

- 汚れがひどい、詰まりがある場合は、清掃してください。
- 損傷がある場合は、交換してください。

《エアクリーナエレメントの清掃》

ガソリンや引火点の低い洗浄剤は、非常に燃えやすいので、エレメントの清掃には、使用しないでください。

1. エアクリーナエレメントを外します。
2. エアクリーナエレメントをきれいな洗油で洗い、絞ってから乾いた布でつつみ、さらに絞ります。
3. きれいなオイルに浸し、固くしぼって取付けます。

推奨オイル

Honda純正オイル(4サイクル二輪車用)

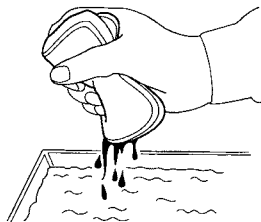
	ウルトラU
API分類	SJ級
JASO規格	MA
SAE規格	10W-30

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、次の範囲内でお選びください。

API分類:SG, SH, SJ級相当

JASO規格(二輪車用オイル規格):MA

SAE規格:10W-30



ベルトケースエアクリーナの点検、清掃

エアクリーナエレメントの点検時には、ベルトケースエアクリーナエレメントの点検清掃もいっしょに行ってください。

1. ベルトケースエアクリーナエレメントはエアクリーナエレメントの近くにあります。
2. ベルトケースエアクリーナエレメントを取外し、水で洗います。
3. エレメントを乾かし、取付けます。



アドバイス

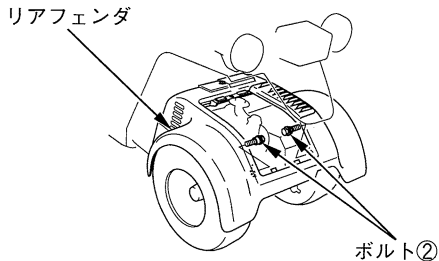
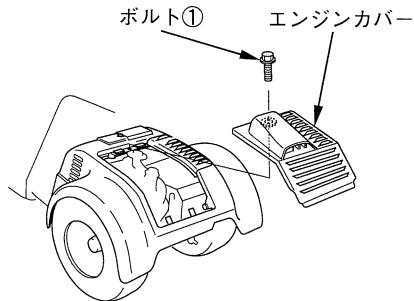
- エレメントは完全に乾かしてから取付けてください。また、オイルには浸さないでください。

簡単なメンテナンス

トランスミッション

《オイル量の点検》

1. 平坦地に車体を置きパーキングロックレバーを上げます。
2. ボルト①を外し、エンジンカバーを取外します。
3. ボルト②を外し、リアフェンダを持ち上げます。



4. ボルト、ナットを外し、リヤフェンダステーを取外します。
5. エンジン停止 2 ～ 3 分後にオイルチェックボルトを外します。
6. オイルがボルト穴の下端まであることを油面の位置で確認します。
油面が低い場合は、ボルト穴からオイルが出てくるまでオイルを補給してください。

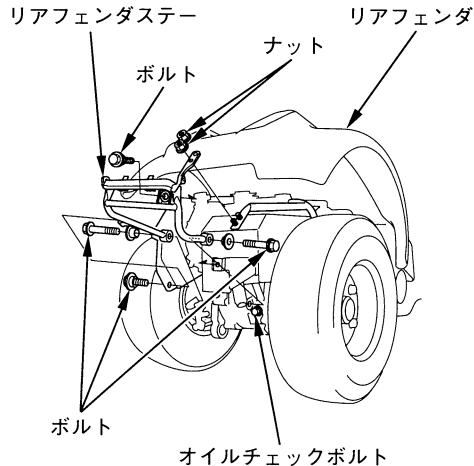
補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。オイルをこぼしたときは、完全に拭き取ってください。

7. オイルチェックボルトを確実に取付けます。



アドバイス

- オイルは規定量より多くても少なくても、悪影響を与えます。



簡単なメンテナンス

推奨オイル

Honda純正オイル(4サイクル二輪車用)

	ウルトラU
API分類	SJ級
JASO規格	MA
SAE規格	10W-30

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、次の範囲内でお選びください。

API分類:SG, SH, SJ級相当

JASO規格(二輪車用オイル規格):MA

SAE規格:10W-30



アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルは使用しないでください。オイルの変質などにより、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

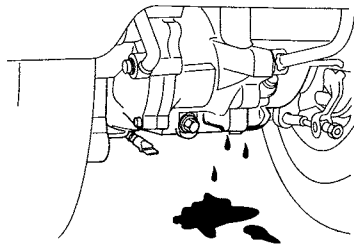
交換時期

4年ごと

トランスミッションオイルの交換は、Honda販売店にご相談ください。

《オイル漏れの点検》

トランスミッションケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。



簡単なメンテナンス

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しています。バッテリー液の点検、補給は必要ありません。

バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

バッテリーの取扱い

- バッテリー取扱い時には、ショートによる火花やタバコ等の火気に十分注意してください。
- バッテリー液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。

アドバイス

- 密閉式バッテリーですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
バッテリーの充電時も液口キャップを取外す必要はありません。

警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリーを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目につ着したとき
ー コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚につ着したとき
ー 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
ー 水、または牛乳を飲んでください。
応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

《バッテリーターミナル部の清掃》

清掃のしかた

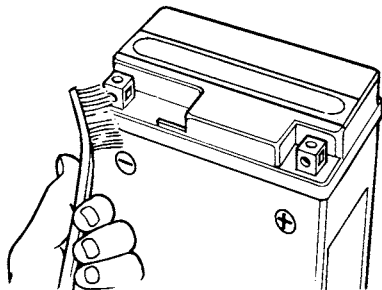
バッテリーを取外します。(次ページ参照)

- ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシまたはサンドペーパーで磨きます。

清掃後、バッテリーを取付けます。

その後、ターミナル部にグリースを薄く塗ります。

バッテリーを交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーをご使用ください。



簡単なメンテナンス

《バッテリーの取付け、取外し》

取外し

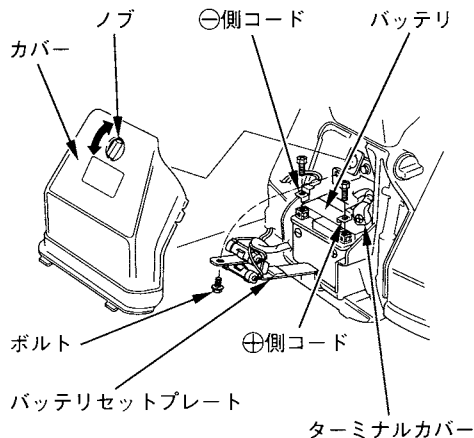
1. メインスイッチをOFFにします。
2. カバーのノブを右へ回し、そのまま手前に引き出して、カバーを取外します。
3. ⊖コード端子のボルトを外して、⊖側コードを外します。
4. ターミナルカバーをめくり、⊕側コード端子のボルトを外して、⊕側コードを外します。
5. バッテリーセットプレートのボルトを取外し、バッテリーセットプレートを図の様に倒します。
6. バッテリーを取出します。

取付け

- 取外しの逆手順でバッテリーを取付けます。

バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取付けてください。

また、ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。



ヒューズ

《ヒューズの点検、交換》

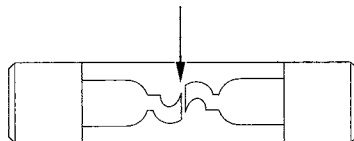
メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。

ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。

ヒューズ切れ



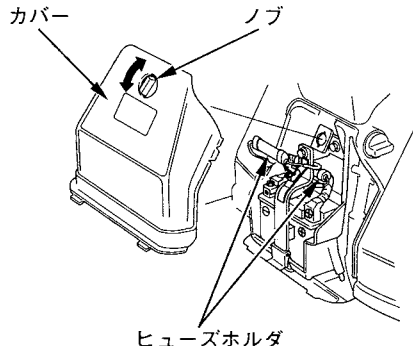
🔧 アドバイス

- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「Hondaアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。

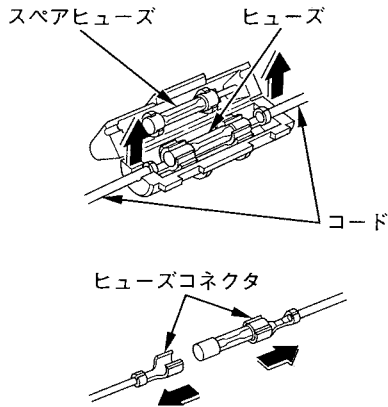
簡単なメンテナンス

取外し

1. メインスイッチがOFFになっていることを確認します。
2. カバーのノブを右へ回し、そのまま手前に引き出して、カバーを取外します。
3. ヒューズはバッテリー近くのヒューズホルダにセットされています。ヒューズホルダを取外します。

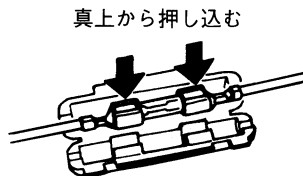


4. ヒューズホルダを開け、ヒューズコード両端を持って引き上げ、ヒューズコネクタをスライドさせます。
ヒューズコネクタをひろげないように注意して取外します。



取付け

1. ヒューズをヒューズコネクタに取付け、ヒューズが容易に横方向に動かないことを確認します。
2. ヒューズ両端を真上から押し込んでヒューズホルダに組付けます。
3. ヒューズホルダを閉じ、バッテリーセットプレート of 取付け位置に格納します。
4. カバーを取付けます。



簡単なメンテナンス

パーキングロックレバー

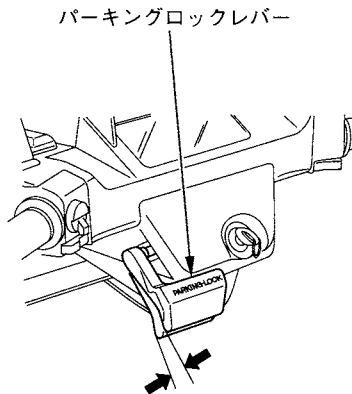
《遊びの点検》

1. 平坦で足場のしっかりした場所に駐車し、車止めを行います。
2. メインスイッチにキーを差込んで“OFF”の位置にします。
3. 車体本体を保持しながら、パーキングロックレバーを下げます。
4. 抵抗を感じるまで、手でパーキングロックレバーを上げ、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

レバーの遊び: 5-10 mm

5. 遊びの量の確認後、パーキングロックレバーを上げます。

規定の範囲を越えている場合は、調整が必要です。
Honda販売店にご相談ください。

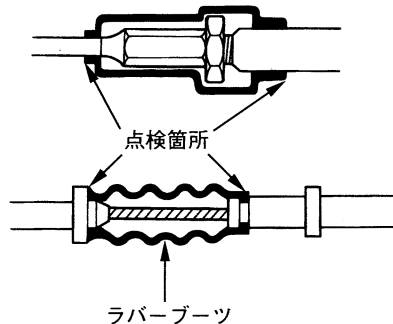


ケーブル類のラバーブーツ

《ラバーブーツの点検》

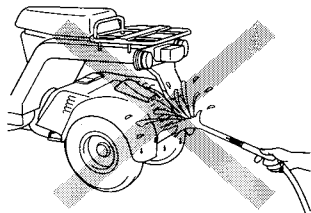
ケーブル類にはインナーケーブル保護のため、ラバーブーツが取り付けられています。常に正しく取付けられているか点検してください。

洗車時には、ラバーブーツに直接水をかけたり、ブラシを当てたりしないでください。汚れのひどい場合は、固くしぼった布等で拭き取るようにしてください。



車のお手入れ

- ボディカバーなどの樹脂部を清掃するときは、水で洗い流してください。
汚れがひどい場合は、水で洗い流しながら中性洗剤を含ませた柔らかい布またはスポンジで汚れを落とし、もう一度水で洗い流してから拭き取ってください。
乾いた状態で拭くと、樹脂部に傷をつけますので避けてください。
- 洗車時、吸気口に水を入れないでください。水が入ると始動不良の原因になったり、動力伝達機構を損傷します。



- 洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。
- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。
洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

-
- 車にワックスをかけるとき、塗装面及び樹脂部をコンパウンド、ワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。



ウインドスクリーンの取扱い

《装備車のみ》

ウインドスクリーンは安全視界を確保するためにいつもきれいにしてください。また、ウインドスクリーンにアクセサリを取付けないでください。運転の妨げになるばかりでなく、アクセサリの吸盤がレンズのはたらきをして、火災などの思わぬ事故をまねくことがあります。

ウインドスクリーンは樹脂部品のため、ガラス製と異なる注意が必要です。次の項目をお守りください。

- ウインドスクリーンの表面が氷結している時は、スクレーパ、解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は使用せず、多量のぬるま湯をかけ氷解させてください。解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は、有機溶剤を含んでいますのでウインドスクリーンに悪影響を与えます。
- ウインドスクリーンを清掃するときは、傷がつきやすいので多量の水を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを落してください。汚れのひどい時は、スポンジに薄めた中性洗剤を含ませ汚れを落とし、さらに十分な水で洗剤を洗い流してください。
(洗剤成分が残っていると、ウインドスクリーンに亀裂が発生する場合があります。)乾いた状態で拭くと、ウインドスクリーンに傷をつけますので避けてください。

-
- ガソリン、シンナーなどの有機溶剤および酸性・アルカリ性の洗剤は、ウインドスクリーンに悪影響を与えますので使用しないでください。
 - コンパウンドやワックスなどで磨かないでください。ウインドスクリーンに傷をつけます。
 - 油膜とり剤、はっ水剤などのケミカル用品は、使用しないでください。有機溶剤を含んだケミカル用品は、ウインドスクリーンに悪影響を与えます。
 - ガソリン、ブレーキ液または洗浄液などの化学物質がメータ、ウインドスクリーン、ボディカバーなどの樹脂部品にかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。
 - ウインドスクリーンに貼付されているコーションラベルは、はがさないでください。

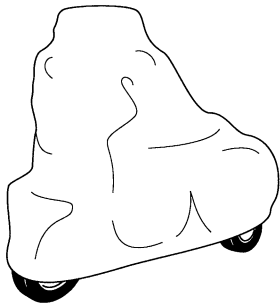
車のお手入れ

保管のしかた

お車はできるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外に保管する場合はボディカバーをかけてください。

知 識

- ボディカバーはエンジンやマフラが冷えてからかけてください。



長期間、ご使用にならない場合は次の項目をお守りください。

- 保管する前に各部にワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため車から取外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は⊖側ターミナルを外してください。

地球環境の保護について

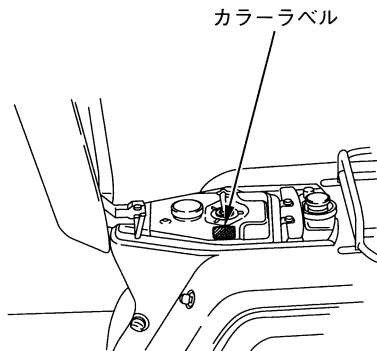
地球の環境を守るため、使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。

また、将来お車を廃車される場合も同様です。
これらのものを廃棄する場合は、お買いあげのHonda販売店にご相談ください。

色物部品をご注文のとき

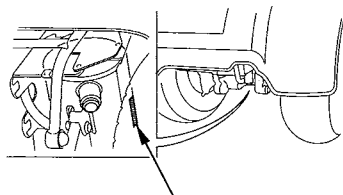
色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、燃料タンクの上面に貼ってあります。



マフラの純正マークについて

マフラの後部には、Honda純正部品を表す
“HONDA”マークが刻印されています。
“HONDA”マークは、マフラ後部にあり、車体
下側より確認できます。



HONDAマーク

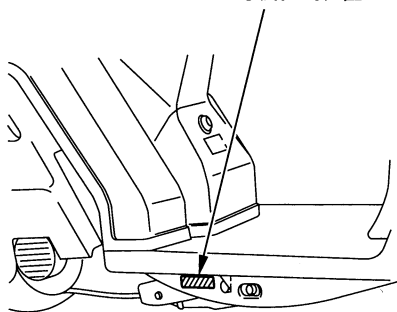
HONDA

フレーム号機

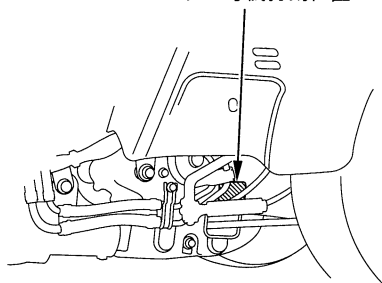
フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。

また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバプレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置



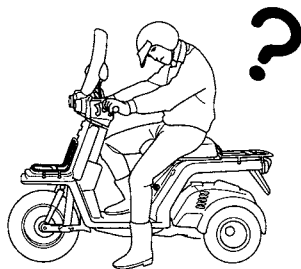
エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- 燃料タンクにガソリンはありますか。
 - エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
 - スターターモータは回りますか。
- バッテリーあがりで、スターターモータが回らないときはキックによる始動を試みましょう。

故障の修理

- お近くのHonda販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くHonda販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。



主要諸元

		スタンダード (ウインドスクリーンなし)	スタンダードⅡ (ウインドスクリーン付き)
型 式		BB-TD01	
長 さ		1,700 mm	
幅		640 mm	
高 さ		1,030 mm	1,405 mm
軸 距		1,205 mm	
原動機種類／総排気量		ガソリン・2サイクル／0.049 ℓ	
車 両 重 量		99 kg	100 kg
乗 車 定 員		1 人	
タイヤサイズ	前 輪	3.50 - 10 41J	
	後 輪	130 / 90 - 6 53J	
最 低 地 上 高		85 mm	
燃 料 消 費 率		45.5 km/ℓ (車速30 km/h)	44.6 km/ℓ (車速30 km/h)
最 小 回 転 半 径		1.7m	
圧 縮 比		7.0	
最 高 出 力		3.7kW(5.0PS) / 6,500rpm	
最 大 ト ル ク		5.6N・m(0.57kg・m) / 6,000rpm	

		スタンダード (ウインドスクリーンなし)		スタンダードⅡ (ウインドスクリーン付き)	
燃 料 タ ン ク 容 量		5.0 ℓ			
点 火 型 式		C D I 式・マグネット点火			
点 火 時 期		BTDC18° / 1,800 rpm			
ア イ ド リ ン グ 回 転 数		1,800 rpm			
点 火 プ ラ グ	N G K	BR7HS	BR6HS BR6HSA	BR8HS BR8HSA	
	D E N S O	W22FSR	W20FSR W20FR-L	W24FSR W24FR-L	
バ ッ テ リ		12 V - 3 Ah			
ク ラ ッ チ 形 式		乾式多板シュー式			
減 速 比	第 一	3.416			
	第 二	3.538			

サービスデータ

前輪ブレーキレバーの遊び		10－20 mm
後輪ブレーキレバーの遊び		10－20 mm
パーキングロックレバーの遊び		5－10 mm
タイヤ空気圧	前 輪	150 kPa (1.50 kgf/cm ²)
	後 輪	125 kPa (1.25 kgf/cm ²)
トランスミッションオイル量	全 容 量	0.40 ℓ
	オイル交換時	0.39 ℓ
ヒューズ		10 A , 7 A
点火プラグの点火すき間		0.6－0.7 mm
エアクリーナエレメント	型 式	ウレタンフォーム式
	ヘッドライト	12 V－30 / 30 W
電球(バルブ)	ウインカランプ	12 V－10 W
	ストップ・テールランプ	12 V－18 / 5 W

お問い合わせ、ご相談は、お買い求めの《Honda販売店》もしくは
全国共通フリーダイヤルで下記のお客様相談センターがお受け
致します。

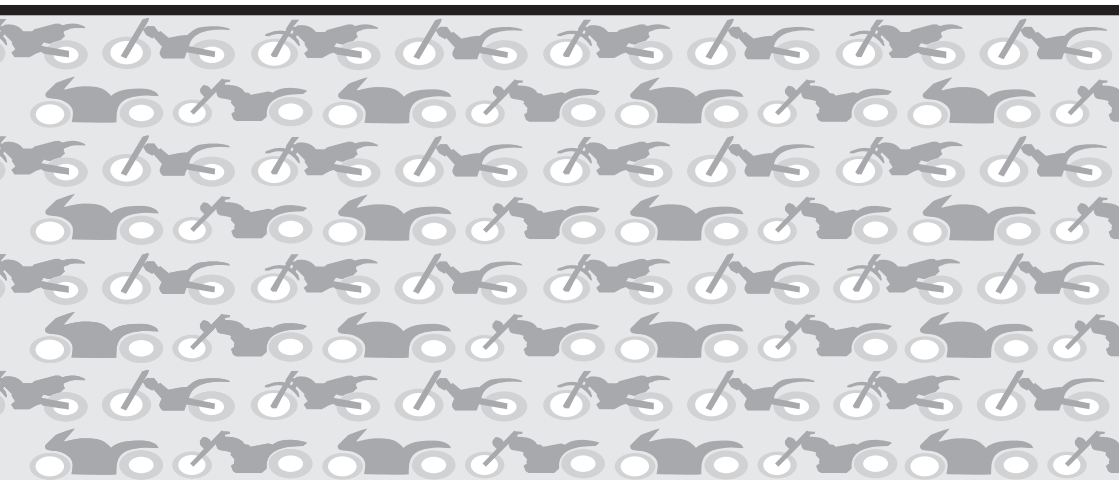
フリーダイヤル オーハローバイク
0 1 2 0 - 0 8 6 8 1 9

本田技研工業株式会社 お客様相談センター
受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1

●所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

HONDA

The Power of Dreams



30GG2670
00X30-GG2-6705

© 2001 本田技研工業株式会社
N (HC) 1000.2001.06.Y